

## 北大における「成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施」をめぐる論議

北海道大学大学院文学研究科

高等教育機能開発総合センター 安藤 厚

- 1) 北大の全学教育の仕組み：平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」採択取組「進化するコアカリキュラム？北海道大学の教養教育とそのシステム？」に沿って説明

[http://infosys3.academic.hokudai.ac.jp/neo\\_univ/](http://infosys3.academic.hokudai.ac.jp/neo_univ/)

- 2) 成績評価基準の明示と厳格な成績評価の実施：平成14年6月の教務委員長（総長）通知について説明

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/grade/Committee.html>

- 3) 全学教育科目の成績評価をめぐる論議と成績分布の公表：「センターニュース」記事に沿って説明

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/grade/grade.html>

教員の間には、授業内容・成績評価基準は個々の教員の自由裁量に任されるべきだという意識も強く、成績評価基準（授業科目ごとのガイドライン）作成の過程では、画一的・機械的な「相対評価」の押し付けは教育の本質を損なう、教養教育に国際的・絶対的な評価基準などあるのか、社会に対して大学の教育の質を保証するというが、企業の採用担当者が教養科目の成績を問題にするとは思えない、一般教育演習・論文指導講義等、少人数の対話的授業では、きめ細かな指導の結果ほぼ全員が「優」となっても当然ではないか等、さまざまな異論・反論が寄せられた。全学教育委員会は、これらの議論を学内広報誌等に掲載し、担当教員の広い理解・合意を得るよう努力する一方、授業科目・担当教員別の優・良・可・不可の%の一覧表を、2001年度分から教員層に公開してデータに基づいた検討を続け、2003年度分からは学生にも公表した。

[http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/2004\\_sei.htm](http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/2004_sei.htm)

2年間にわたる検討・調整の結果、「成績評価の極端な片寄り」はかなり改善されたように見える。分

野別科目、複合科目（総合講義）等の多人数（100人以上）のクラスでは、かつては「評価せず」（履修取り止めと見なす）15%、優85%といった評価も見られたが、現在は優が50%を超える評価はほぼなくなった。外国語科目、基礎科目では、2003年度1学期・2学期分について、優60%以上、「不可+評価せず」25%あるいは30%以上の例、それぞれ15件ほどについて、担当教員に事情を問合せた。回答の中には、絶対評価の基準に基づいて評価した結果、たまたま学生が好成绩だった、あるいは成績が悪かっただけで、これを「相対評価」の考えにより修正するのはかえって不公平である、あるいは、自分は学生の努力を最大限に励ますシステムで授業と成績評価を行っている、優が多いのは学生の努力の結果である等、さまざまな意見があった。これらについては、各科目の企画責任者と教員集団に、今後の検討・調整を委ねている。

\* 日本私立大学連盟『大学時報』2004年9月号、特集：GPA制度の活用、安藤厚「厳格な成績評価とGPA制度の導入－北海道大学の取り組み－」、40-43ページを参照。

- 4) GPA制度の導入と履修登録単位数の上限設定（その後の展開）

2004年度に本学総長室・教育改革室及び教務委員会で検討した結果、平成17年度1年次学生から全学共通の「秀」評価及びGPA制度を実施することと、平成18年以降の教育課程の中で、学生の学力の多様化に対応して、1年次において履修登録単位数の上限を設定する検討を始めることが決まった。

<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/GPA/gpa.htm>

<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/GPA/kyouikukatei.htm>